

一月 十一日

謹賀新年



本年もよろしくお願い申し上げます。

二〇一一年がスタートしました。この年もみんなが楽しく平和でありますようにと願うばかりです。

しかし、学校は、三月が終わりで、四月がスタートです。一月が十五日間、二月が十九日間、三月が十七日間（六年生は十四日間）と授業日数は五十一日間です。しかし、六年生は卒業式が三月十八日ですから四十八日間しかありません。

まさにラストスパートです。総仕上げの時期です。

学習はどうであったか、積み残しはないかを振り返って、完全習得を目指していきます。また、生活面でも同様です。決まりどおりできたか、その学年にふさわしい行動ができるようになったかどうか、次の学年の準備はできたかどうかを見極め、しっかりと生活できるように努力させていきます。

どうぞ家庭でもいろんな事を振り返って

充実した学校生活となるように、ご協力をお願いします。

歳時記の「鏡開き」 ～ことばの力～

鏡とは、もちろん鏡餅のことです。丸い形のお餅を鏡に見立てて、神様にお供えたものです。餅は望月（満月）にも通じ、家庭円満の象徴ともいわれます。（美人の日本語より）

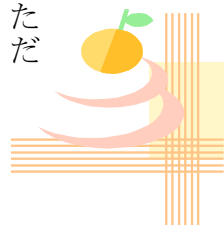
普通は、鏡切りとか、鏡割りと言いそうなものですが「切る」とか「割る」は縁起が悪いということ、で、「開く」ということばが使われるようになったと聞きます。いわゆる忌み言葉ですね。結婚式でも、別れる、切れるなどの言葉は、神経質なまで避けますね。

言葉には、言霊が宿っていると固く信じられていたのですね。

確かに、「鏡切り」や「鏡割り」を「鏡開き」と置き換えただけで、ぱっと明るい光が射し込むような、そんな感じがしてきます。

言葉を選んだだけで、心の景色も変わるようです。

私たち教師は、言葉を使うのが仕事です。子どもに伝えたいことを、どう心に響かせるか。しっかりと言葉選びをして、子どもの目を見て、子どもの心に届けなくてはと改めて考えさせられます。



宮田先生元気に復帰



九月終わってから、体調を崩して休んでおられた宮田先生が一月十一日から元気に復帰されました。全校朝会で、みんなが宮田先生を拍手で迎えました。宮田先生も「みんなの励ましの手紙や千羽鶴をおってくれたのが支えになりました。ありがとうございます。百十二日間も休みをしていたので、早く元に戻って頑張りますのでよろしく願いします。」というあいさつをいただきました。四年一組のみんなも笑顔いっぱいでした。

朝の登校の「IT」

七時三十分から八時まで、校門の階段下であいさつ運動をしていました。みんな元気にあいさつができました。中には、心なしか下を向いて寒そうに小さな声で「おはようございます」という子どももいました。今年の目標は「あいさつ名人」を増やすことです。学校で、地域で、家庭であいさつ名人を増やしましょう。そのためには家庭の協力が必要です。朝、家を出るとき元気よく「いってらっしゃい。」と一声かけてください。朝は、元気なあいさつが何より。嬉野小はあいさつが上手な学校です。よろしくお願いします。

